

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

別添資料 5

公表：令和 1年 6月 29日

事業所名：一般社団法人コーナーストーンぴかり

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		活動ごとにコーナーを設け活動を わけている。	
	2	職員の配置数は適切である	○		開所間もないため、利用者も少なく 十分な関わりが出来ている。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		個人ロッカーや靴箱等に子どもの名前の他にマークを付ける等の配慮を行い、絵カード等を準備し意思疎通が随時とれるようにしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		日々の清掃以外にもスタッフ同士で声を掛け合い整理整頓を意識している。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		不明点等あればその場で解決できる事、出来ない事を明確にし改善を図るため、お互いの気づきを報告しあう場を適宜持つようにしている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している		○		開所間もないため、ホームページの作成を行っている。作成後、随時公開予定。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		外部から顧問として第三者に業務に加わって頂き、業務改善が随時図れるようにしている。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		定例ミーティング以外にも全スタッフが久しく業務を遂行できるようにマニュアルを作成し取り組んでいる。	
適切な 支援の 提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		作成にあたり、保護者との面談の機会を持ち子ども自身が感じている困りごと、保護者の困りごとや思いを把握し事業所内で十分に議論を行い計画作成に努めている。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		アセスメントツールを使用し、子どもたちの発達状況の把握に努めている。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		連絡ノート等を活用し、子どもの育ちの確認やご家族の困りごとを一緒に考える機会を設けている。また、地域の方との交流の機会を持てるようにイベント等を企画している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		アセスメントを行い、適宜見直しを図っている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		プログラムの立案は全スタッフで行っている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		その日の天候や子どもの状況に応じて対応し日々の活動に新たな発見が出来るように工夫している。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している		○		開所間もない為、集団活動への取り組みは出来ていないが、個人・集団活動を想定したプログラム作成を行っている。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		日々、業務日誌を作成し、個々の役割や支援内容を明確にしている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○		スタッフの勤務時間もあり打合せができない事もあるが、申し送りノートの活用や日を改めて話し合う場を持つようにしている。

	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日々の子どもの育ちをケース記録に記している。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		3か月・6か月など具体的に日を決め、業務を遂行している。	
関係機関や保護者との連携	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		学童期連絡会等には、管理責任者（保育士）が参加している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている			子ども一人一人の担当相談員または、保育園関係者と連携を図っている。	
	23	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○		現在、該当する子どもが子どもの通所はありません。
	24	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合）子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○		現在、該当する子どもが子どもの通所はありません。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		お迎え等で担任の先生や園長先生との話す機会を意識的にもち、情報共有を図っている	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○		現在、該当する子どもが子どもの通所はありません。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		事業所見学等を利用し、情報共有等を行っている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		戸外活動時には、地域の公園で一緒に遊ぶなど接する機会を多く持つように意識している。	
	29	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		月一回は区内で行われている学童期連絡会に参加している。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡ノート等を活用や送迎の際、子どもの育ちの確認やご家族の困りごとと一緒に考える機会を設けている	
保護者への説明責任	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている		○		スタッフの経験値を生かしながらも養成講座等を受講し支援に努めていきたい。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		利用申し込み時や変更毎に必ず、一緒に読み上げて確認している。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		アセスメントを実施し、個別支援計画（案）を提示保護者に説明を行い双方内容に合意したのち個別支援計画を実施している。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		保護者の困りごとに対して、全スタッフで共有し、様々な立場に立って考えられる体制づくりをしている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	開所間もない為、現時点では出来ないが、年度末に保護者と子どもスタッフで過ごす機会を作る場を企画中。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		フローチャートを目に見えるところに掲示し、各々の役割分担を明確にしている。	

任 等	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		月1回、事業所だよりを発行し活動内容等を知らせている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		鍵のかかるキャビネットに保管及び鍵の取り扱いも責任者保管としている。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		開所間もない為、意思疎通が難しい子ども・保護者はいないが、資料にルビを振ったり、絵カード等は準備している。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		地域交流の一環として、夏祭りのイベントを企画中。	
非 常 時 等 の 対 応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		随時確認できる場所にマニュアルを置き、全スタッフで内容を共有し訓練等定期的に行っている。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		月1回の安全点検及び、年間の災害訓練計画を作成し取り組んでいる。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		面接の際に予防接種・てんかん等の既往歴を確認、服薬等の取扱マニュアルを作成、与薬事故が起こらない体制づくりを構築している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		食物だけではなく動物・植物等のアレルギーに対しても確認を行い、必要な指示等は文章で頂くようにしている。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット事例集を作成し、スタッフの意識共有を図っている。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		スタッフミーティングの際には、虐待に対しての認識の共有を図っている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		○		開所間もない為、身体拘束の利用時は現在いないが、研修等に参加して必要な知識を身に付けていきたいと考えている。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は事業所全体で行った自己評価です。